

琵琶湖流域における水・生物・暮らしの「つながり」の再生に関する研究（政策課題研究2）

琵琶湖環境の再生に向け、かつては、内湖を含めて琵琶湖と人々の暮らしの間に存在した「つながり」に着目し、流域の特性等に応じた水質保全対策や生物の分布域に配慮した水環境保全の方向性を示すとともに、市民や専門家、行政が調査結果等学術的な情報の共有を図りながら琵琶湖の総合保全を進めていくためのあり方を提示します。

[キーワード：水質対策の効果予測，山から湖までのつながり，住民参画]

取組内容

[琵琶湖流域の「つながり」をシミュレートするツールの構築]

- 調査データを基にした精度検証や特定の河川流域等に対応し、流域における水質保全をはじめとする各種対策の琵琶湖への効果を予測するため、琵琶湖流域統合管理モデルの開発・改良を行います。

サブテーマ名「琵琶湖流域統合管理モデルの活用に関する研究」

「第6期湖沼水質保全計画の予測計算と水質保全対策の評価に関する研究」

[水系のつながりと生物の生息環境に配慮した水環境保全の方向性の提示]

- 琵琶湖に流入する複数の河川流域を対象に、源流域（山）から中流域（川）および水田等（里）、湖辺域（湖）における水、有機物、栄養塩の動態やその起源を推定するとともに、主に底生動物を指標として生息環境と種構成・生息密度の現況を明らかにします。
- 取水堰や生活雑排水流入の生物生産への影響など、河川の流れの連続性や変遷、分断化などの状況と重ね合わせ、流域における生物の分布域との関連性を解析します。

サブテーマ名「山・川・里・湖の水系のつながりと生物の関連性に関する研究」

[市民参画による計画の推進手法の提示]

- 流域ネットワーク委員会・流域協議会や、マザーレイク 21 フォーラムを対象として、県域・流域レベルでの市民参画のあり方について検討します。また、具体的な河川流域を対象として、得られた学術的情報を活用しつつ、住民参画によって計画を推進するための検討を行います。

サブテーマ名「県域・流域レベルの市民参画と学術的情報の活用に関する研究」

研究全体のイメージ

